

言語学 A 第3章: 方言

1 方言

問1 日本語の方言1つと東京のテレビ・ラジオでアナウンサー、ナレータらが使っている言語の違いについて話し合え。

問2 電車のアナウンスやテレビ放送は方言で放送されるかどうかを話し合え。

2 大阪方言

問3 テレビなどから受ける大阪方言の印象・特徴を話し合え。

1. A: おじゃましますか。
2. B: いや、きかれても。「おじゃましますか」で、「か」はいらんねん。
3. A: 「か」はいらない。監督、これ運び終わったら、休憩してもいいです。
4. B: そこは聞けよ! 「休憩してもいいですか」や。
5. A: 休憩してもいいですか。
6. B: あかんよ、まだ。
7. A: あー、めちゃくちゃ疲れているんですか。
8. B: 聞くな! いうんや。お前のことやろ。
9. A: めちゃくちゃ疲れているんですよ。
10. B: あかん、あかん。セメントこれで最後か。
11. A: 聞かれても。
12. B: 普通の質問や。普通の質問や。
13. A: ああ、これで最後です。

問4 大阪方言の特徴を具体的に述べよ。

問5 なぜ「笑い」が出てきているかを分析せよ。

問6 英語には You や I などの主語を表す語が言われるが、上記会話にはそれがない。なぜないか。

3 中国語、韓国語、日本語の似た音

問7 どのように3つの言語の間の類似点を感じるか? 次の語について似ているかどうかを話し合え。

1. 茶 2. 注意 3. 市民 4. 治療 5. 温度 6. 民族 7. 感動 8. 準備
9. 混乱 10. 麻婆豆腐 11. 青椒肉絲 12. 回鍋肉 13. ビビンバ 14. 炒飯 15. 寿司 16. 瞬間移動

問8 2つの言語の類似点/相違点はどうか考えるか。

問9 2つの文化の類似点/相違点をどうか考えるか。

問10 ことばが変化する要因は何かを話し合え。

4 蝸牛考

問11 「蝸牛考」(柳田 1930)の理論について説明せよ。

問 12 「蝸牛考」に出てくるような例をあげよ。

5 言語が変化する軸

問 13 言語が変化するのには地域であることはわかった。これを地域軸と呼ぶことにしよう。ほかにどんな軸が考えられるかを話し合え。

6 単語の重さ

問 14 どの文にも出てくる語 (a) とまれにしか出てこない語 (b) がある。(a)(b) それぞれの語はどんな語か。

問 15 単語には重さはない。しかし、(a) 種と (b) 種に重みをつけるなら、どんな重みをつければよいか。重みの計算方法を考えよ。

問 16 地域や時代によって言語は少しずつ異なる。(a) 種と (b) 種で分析するなら、地域別 (方言・外国語)、時代別 (古語、現代語) でどんな違いが見られるかを考えよ。

7 発展

問 17 大阪弁と他の方言との類似性、相違点について述べよ。

問 18 「全国アホ・バカ分布考」(松本 1996) も読んでみよ。

問 19 大阪弁変換プロジェクトにはさまざまな辞書と変換サーバがある。自分の文章がどのように変換されるかを試みよ。

問 20 上記サーバの基本技術について話し合え。

8 宿題



問 21 「じゃがいもを感じる。#イモーショナル」(カルビー) のような最近テレビやコマーシャルなどで聞いたダジャレを書いてください。

問 22 [いつものページ](#)にアクセスし、質問に答えよ (本日中締め切り厳守)。

参考文献

松本修 (編) (1996) 『全国アホ・バカ分布考: はるかなる言葉の旅路』, 新潮文庫, 新潮社.

柳田國男 (1930) 『蝸牛考』, 言語誌叢刊, 刀江書院.